

令和6年度第2回仙台市青葉区区民協働まちづくり事業評価委員会議事要旨

日 時：令和7年2月19日（水）

13時00分～17時00分

場 所：青葉区役所9階第1会議室

出 席：青木委員長、齊藤委員、

田口委員、丹治委員

※過半数の出席により委員会成立

1 開会

2 挨拶 仙台市青葉区区民協働まちづくり事業評価委員会 委員長 青木 ユカリ

3 議事

(1) 議事録署名人選定 丹治委員

(2) 令和6年度青葉区区民協働まちづくり事業 企画事業報告会

◇各事業報告

◇質疑応答、意見等

① 仙台市ほたるの里づくり事業

委員 関連する団体の中に企業とあるが、どのような企業からサポートがあるのか。企業からのマンパワー等も含めたサポートがあると、このような取り組みはより広がり、持続可能なものになるはずだ。また、社会貢献等でこのような自然保護と維持は、企業の目的に合致する部分もあると思うので伺いたい。

説明者 主にまつりで協賛をいただいている、新川にあるホテルや旅館の方々になる。ホテルのバスでほたるの生息地にやってきて、観賞していただいている。まつりを実施する際にサポートしてもらっている。

委員 事業費に占める各地区の運営費は、それぞれおそらく規模等によって、金額が決まると思うが、どのような基準で決定しているのか。

説明者 運営費を多く必要としているのが、まつりを実施している地区と電気を使っている地区だ。策川地区は川から水を汲み上げるポンプの電気代が年間80,000円程かかるため、他団体より多くなっている。限られた地域だけで活動している地区は、運営費が少なくなっている。策川地区は電力をかけて活動してことに加え、幼虫を増やす活動もしている。その幼虫を各地域に譲渡し、まつりの際にその幼虫を皆に鑑賞してもらう活動をしているため運営費が多くなっている。

委員 報告書の中に、SNS発信について触れているが、どのような媒体を使っているか。

説明者 XとFacebookを利用しているが、広報は苦手な分野だ。

委員 1 雰囲気を伝えることや即時の情報発信、まつりに来た方がハッシュタグで連動して独自に発信することなども、情報の広がり方として方法がある。すべて団体の構成員だけでやるのではなく、情報発信のサポートをしてくれる方などメンバーを増やしていくこともある。そのような形でサポーターが増えていく良い。

委員 2 今年度も小学生対象の絵画コンクールを実施しているが、2校からの応募となっている。これを広げていくために力を入れて、積極的に取り組まれたことはあるか。

説明者 1 6月のまつり期間に子供たちの絵を貼りたいため、5月から6月までを応募期間にしていたが、学校側が忙しいということもあり、夏休みの宿題として、夏休みから9月にかけて募集期間を延長した。

説明者 2 それに関連して補足だが、私が所属している旭ヶ丘地区は、旭丘小学校と台原小学校の3、4年生を対象にほたるに関する講座を行っている。パワーポイントを使い、映像とクイズ形式で様々な話をしている。その際に興味を持ってくれると、ポスターや作文に応募するが忙しい場合は難しい。それにより取り扱いが違うことが課題と思っている。

委員 この事業のコンセプトは、未来を担う子供たちに自然環境保護について、ほたるを通して学んでもらうことだと思っている。また、仙台市内の各地区に連携している団体があるため、可能ならば各地区活動の中に、地域の小学校や幼稚園との連携があると、目的の達成に繋がるのではないかと。良い活動だと思うが、それを周囲に広めていくことも大事だと思い、今後検討していただきたい。

② 西公園キャンドルライトファンタジー事業

委員 支出について、光のページェントのテントを借りることができたと話があったが、当事業の委託でもテントをリースしているが、どのような関係にあったのか。今後このような委託関係は、物価高で価格上昇していくことが想定されるため、いかに抑えていくかが、事業を継続していく際の課題になるという観点で伺いたい。また、報償費に71,600円とあるが、これが何に使われたのか教えていただきたい。

説明者 テントについては、光のページェントのテントを使ったが、広瀬川から吹く風がかなり強く、例年川側にテントを張っており、今回も同様にテントを設置した。用途は飲食屋台と学生ボランティアの荷物置き場兼控え室、本部席も設置し椅子とテーブルを置いて休めるようにしている。光のページェントのテントを使うことができた分、休憩テントを減らしたが、風があると蠟燭の火が消えてしまうため、防風目的も兼ねて当会側でもテントを設置した。報償費に関して、学生ボランティアに多く参加いただいているため、その方々に夕食費として出している。併せて、出演者にも同様に夕食費を出しており、それらを報償費としている。

委員 各団体作品の写真を拝見したが、このデザインはどのように決めているか。当日一斉に飾っていくのか。参加小学校の子供たちも参加して並べているのか。

説明者 まず、紙コップを各学校の生徒数、もしくは必要数を渡し、それに絵を描いてもらっている。当日は15時頃まで来ていただき、16時半の点灯式までに並べて欲しいと依頼してい

る。模様やデザインに関しては、すべて学校に任せている。我々からデザインの提案はしていない。

委員 参加した子供がどのようなデザインにするかは学校で時間を設けていると思うが、この点灯式を終えたあとに学校で振り返りや共有をする機会はあるか。

説明者 綺麗だった、良かったという話は実行委員担当者には聞こえてくるが、すべてまとめてという機会はない。

委員 この参加や体験を、学校側が地域との接点という部分でどう捉えているか。実際に当日、このような場所にいることで、来場者の様子を子供たちや関係者の皆さんも知ることができ、西公園の普段の様子とは違う晴れ舞台のような華やかさの中で、イベントを成功させるまでのプロセスを関わる方々でどのように楽しんでいるのかを見ることができると思う。あって当然の催しになっているところはありつつも、楽しさみたいなことの共有や情報を伝える機会があっても良いと思っている。それを体験した子供たちに何か変化があること、学校の皆で取り組んで得たものが、実行委員会にも届くと良いと思った。

③ 回文の里づくり事業

委員 いつもイラストが良いと思って拝見している。今後のネットワークづくりだが、今の段階でどのような団体と繋がりがあるか。

説明者 現段階で繋がりはないが、天童市役所に務めた方が退職してから回文の本を3冊か4冊製作し、現在作並の観光交流館ラサントで販売している。その方と1度お会いしたが、そのような方と繋がることを考えている。

委員1 作並は山形の方が近い印象があるが、同じ仙台市内でも荒町商店街では回文のうちわを製作しており、回文をキーワードに催しを行っている。同じ仙台市内で交流することも良いと思う。楽しんでいる方の姿が見えることが何よりだと思う。そこに関心を持って関わりを繋げてくれる方もいるだろう。荒町商店街は1つの繋がり先としてあると思った。

委員2 私も荒町商店街と繋がっていただけると良いと思ったが、市民センターも窓口になっているはずで、市民センターに聞いて始めていただけると良い。作並地区周辺の小学校中心に、コンテストのチラシや募集PRしていると思うが、周辺だけではなく、他にももう少し広げてPRすることはできないか。

説明者 今回は仙台市立の小学校全部にパンフレットを郵送したが、あまり反応がなかった。回文に興味のある子供が、上野山小学校や将監西からチラシを見て提出してくれた。親が興味を持つと子供に取り組みせるということもあるようだ。ただ、応募作品数が少ないことは、反省すべきと思っている。

委員 チラシの製作費もそれなりの予算を割いているが、回文は仙台が持っている宝の1つで、子供たちにその存在を知らせ、広めることは大事なことだ。広報やPRなど、メンバーだけでは難しいと思うが、他団体や荒町商店街などと協働できると、より広がっていくと思う。それが最終的には作並の活性化に繋がっていくと考える。

④ 大倉ダムの魅力発信事業「鯉のぼり×大倉ダム」

委員 来場者数が毎年増え、自己資金として協賛金を確保しており、グッドプラクティスで非常に良い事例だと思っている。テレビや新聞を見て来られた方も多いという話だが、地元以外でどこから来られる方が多いのか。多くの人が来れば、経路の問題が生じると思うが、この活動をしている3日間以外の360何日間はダムにはある。そこにこの取り組みで魅力を見せて、残りの360何日間に地域の交流人口や関係人口増加に繋げていく道筋という観点で、どこから来られる方が多いのだろうか教えていただきたい。

説明者 来場者にどこから来ているかアンケートは取っていないが、チラシを配る際に声かけをしており、県内市内問わず全国から来ている方が多く、関西圏や関東圏からも来ていただいていると実感は得ている。インターネットやFacebookなどの媒体を介して情報を発信していることも効果があると思う。ダムの活用は、今回土木遺産に認定されたことをきっかけに、情報発信できるということとこれまで小中学生がダムの清掃を県のダム管理事務所と共同で行っており、地域の方が清掃活動をしたいということで、長い期間はできないかもしれないが、一定の期間周知できるタイミングはあると思っている。

委員 昨今は土木や建築技術への関心が高まり、見学に来ている方も多いと思う。鯉のぼりという、非常に特徴ある取り組みで良いと感じている。経費について、ダム関連の説明看板製作費だが、事業紹介パネルとはまた別のものになるのか。

説明者 項目の中では2つになっているが、1つの事業費230,000円の中から捻出し、掲示板を設ける内容だ。

委員 この事業の目的自体もダムの価値、宝ともいえるべき魅力を発信するという部分に繋がる。遺産認定されているのであれば、国土交通省や県の予算を、この看板の耐久性のために使うなどという検討はされているか。

説明者 大倉ダムは県の所管で、将来的に会を重ねていくにあたり、支援協力は必要な部分だと理解しており、調整しながら様々な人に声掛けを行い、検討を進めたい。

委員 鯉のぼりを70本から40本に選別すると報告書にあり、選別の大変さがあると思ったが、苦労やエピソードがあれば教えていただきたい。もう1つは、写真を拝見しているが、新緑の頃に鯉のぼりの展示の季節かと思う。これはドローンで撮られた特別アングルだと思うが、四季折々、おそらく植生によって綺麗なスポットがあるのではないかと。鯉のぼりだけではなく、大倉ダムの四季という切り口で、土木遺産や自然遺産を見に来る方に、独自に発信してもらえようハッシュタグをつけて発信をお願いするなど、遠方からの応援団を上手く巻き込む方法もあると思った。もし何か考えていることがあれば伺いたい。

説明者 鯉のぼりの選別は例年、小中学校に一尾ずつお願いしている。ダムの堤体はと重さ制限があり、ロープもあるため40本に制限している。大倉中学校、大倉小学校で製作してもらっていたものは、学校がなくなり、もう二度と作ることができないことから、その名前が書いてある12本を地上での掲示物に変えていくことを考えている。また、新たに飾りたい場所があれば、要望にこたえて敷地内や堤防にと考えていきたい。ロープを張る作業は、労力が必要で、段取りを間違えると大事故に繋がることや裏返ってしまうと景観が良くないこと

もあり、鯉のぼりの中に柔らかいスポンジ状のパイプをつけて、裏返らないよう常に伸びた状態にしている。景観と作業の効率化を含めて、皆で話し合い今回の成功に繋がっている。写真については、四季折々の状況を見せるため、ダムの記事事務所や県とも協力しながらYouTubeで発信している。第2回目ぐらいから発信しており、設置状況も皆さんにご覧いただいている。鯉のぼりが無くても、雪で舟形山が白くなっている景色など、継続してダムの魅力を発信することも、これから必要と改めて考えさせられた。

委員 柱になっているコンセプトは大倉ダムの魅力、宝としてのものを発信していくこと。その1つの手だてとして、鯉のぼりを地域の小中学生の協力を得ながら、今回も多くの人々が集まり、効果があったと思う。この3日間だけの魅力ではなく、年間を通じて何かできるものはないかと考えている。例えば、作並観光交流館ラサントで展示することはこれまではなかったのか。ラサントのような施設を利用するなど、日常的に継続してPRできるようなものもあると、組織の目的がより生かせるのではないかと思った。

説明者 5月のゴールデンウィークには、定義山の参道前で歩行者天国を開催しており、そちらで3日間に限りチラシを配布している。定義と動線を繋いで大倉ダムにも訪れてもらう取り組みや作並・上愛子の町内会長にも実行委員会に参加してもらっていることから、その方々からも声かけをしていただき、ラサントでのチラシ配布も行っている。作並・上愛子・大倉・定義と動線を結びながら、鯉のぼりを見てもらい、改めて大倉ダムを認識してもらえるように取り組んでいきたい。

⑤ 宮城地区まつり事業

委員 来場者が増えてきた一方で、車で来場する方について様々な問題が起こっている。例えば、愛子小学校のグラウンドを駐車場として使える可能性はないのか。正月に神社近くの小学校校庭を駐車場として開放している実例がある。それは正月だからできることかもしれないが、そのような可能性を探るとシャトルバスの経費などは抑えられると思った。グラウンドの形状により可否あると思うが、検討してみても良いのではないかと。

説明者 愛子小学校のグラウンドは、以前借りられないかと相談をしたことはあったが、土壌の問題があり難しいと返答を受けた。ただ、現在でも愛子小学校の職員用駐車場は借りている。他の学校や天文台に少しスペースがあるということで、そちらも確認しながら、駐車場スペースを広く確保できるよう検討したい。

委員 出展、出演関係者に規則を守ってもらえないという課題について、説明会を9月25日と27日の平日日中に開催したか。

説明者 基本的に、平日午後で開催している。

委員 全ての団体が参加していたか。

説明者 出展、出演の参加条件として、必ず説明会に出席することとしていたため、全ての団体が参加していたが、規則について浸透していないところがあった。

委員 安全対策業務委託とは、このような業務を受ける業者が実際にあるのか。

説明者 コロナ禍以降初めて飲食を再開することで、駐車スペースが少なく狭い状況においては、

混乱が生じることが想定された。当日のカラーコーンやコーンバー等の備品は事務局で準備したが、委託業者には来場者の並び具合を見ながら整列作業を行うほか、今年度はアドバイザー業務に近いものも依頼しており、出展者の違反などを見つけた際に、指摘をしてもらうなど、違反行為を見つけるという面でも、協力をいただいた。

委員 それは仙台市内にそのような業者があるのか。

説明者 青葉区内に業者がある。

委員 動線などのプランの提案を求めることに加え、レイアウトのアドバイスも依頼しているのか。

説明者 備品を設置する際のレイアウトに対して助言をもらっている。出展者説明会にも参加してもらった。

委員 当日も何名かが現場に常駐し、その人件費は経費となるか。

説明者 そうだ。

委員 広瀬文化センターは、今年はステージ発表には使っていないが、使用料はそれなりに支払っている。ステージ発表の代わりに、親子映画鑑賞会を企画されたようだが、その経緯と親子映画鑑賞会がどのような様子だったか教えてほしい。

説明者 昨年度から広瀬文化センターでの出演者が集まらないという状況だったため、今回は親子映画鑑賞会として、文化センターと市民センターの自主事業として実施いただいた。ただし、楽屋やリハーサル室は屋外の参加者用に借りており、会計処理の都合上、ホールと楽屋使用の費用をすべて含めて、一旦事務局で支払いをし、後で出展料として、ホールの使用料を文化センターから徴収することにした。最終的な事務局の負担は、ホール使用料は含まれていない。親子映画鑑賞会は、時間を決めて行っているものではなく、継続して映像を流しているため、好きな時間帯に鑑賞できることで、昼の時間帯などはこども連れの方が多く集まり盛況だった。

委員 これは誰が行い、内容はどのような感じだったか。

説明者 日本の昔話という内容のアニメーションを継続して流していた。文化センター、市民センターの館長から提案があったもので、運営は文化センターと市民センターが担当して行っていた。

⑥ 青葉区民まつり事業

委員 いろいろ苦労はあったと思うが、そこから得たものやノウハウが繋がっていくこともあると思う。商店街を訪れた方がまつりを見ることで新しい出会いが生まれている利点もあるのではないかと。学生ボランティアの参画が今回あったようだが、きっかけと実際どのように関わっていたのか伺いたい。

説明者 青葉区民まつりプロジェクトチームと区民まつり実行委員会も、運営が属人化している状況において、人材育成の観点と今後まつりが新たな提案を生み変わっていくためには、学生など若いメンバーが中心になって活動してもらわなければいけないという話があがっていた。その中で、一部の企画を学生に任せてみても良いのではないかと話になったこと

で、今回 SNS の利用に長けている学生に依頼した。学生メンバーの中には、大学祭の実行委員会を経験し、ノウハウを持っている方もおり、本人たちの取り組みたいという積極的な意見を尊重し、任せることになった。具体的には、公式インスタグラムと X を 10 月からほぼ毎日投稿を続けた。出展者や出演者、会場情報などまつりの宣伝を随時更新した。現地取材や投稿する記事内容、イラストなどは学生メンバーが作成した。

委員 全体経費に占める委託費の割合が気になる。この事業が、今後持続可能か不安に感じている。勾当台公園再整備工事の影響により、従来の会場が使えない事情は理解できるが、本当に必要な委託事業は何になるのか。これから 10 年 20 年と続けていくためには、事業の取捨選択が求められると思う。その辺りを検討してもよいのではないかな。

説明者 今年度、開催エリアが拡大し、人件費や資機材備品のレンタル料大きく増えた。これは課題となっており、実行委員からの事後アンケートにおいても、経費が掛かり過ぎていると指摘を受けている。次年度に向けての課題として、今後改善に取り組みたい。他区のまつりで行っている経費削減対策も参考にしながら、委託にかかる経費のバランスを見極めたい。

委員 例年の会場を変更したということで、商店街と連携しながら実施することは、当然手続き面など非常に大変だと思う。学生の協力を得ながらということで、特に仙台以外から来る学生がこうした大きなイベントや地域活性化イベントに関わることは、非常に意義があると思っている。学生さんが商店街関係者との関わりを持つということも、これからの仙台を考える上で非常に重要なことで、そのようなこともこの事業の特徴として捉えながら継続してほしい。

説明者 プロジェクトチーム内では、若い人たちが中心部で活躍することや商店街との関わりを機に興味を持ってもらうことも、1 つ意義としてあるのではないかなという話もあがっていた。今年度経験したことを生かしながら、次年度に繋げていきたい。

委員 学生メンバーの募集方法とどのくらいの人を実際には参加していたのか。

説明者 学生メンバーは、今年度 30 名程が参加していた。一番多かったのは東北福祉大のメンバー 20 名近くが、ゼミの一環として参加してもらった。学生メンバー募集は、例えば、大学のボランティア関連部署や教授に声掛けし依頼をしている。

委員 学都仙台ということもあり、若い力の潜在能力が高い街だと思う。若い人たちの感性、考えは、年配者には考えつかないような企画が出てくることもある。是非若い方々の力を生かしてほしいと思っている。

⑦ FFF 青葉事業

委員 公共空間の利活用は道路や河川などで進んでいると思うが、ゴールイメージはどのようなものを持っているのか伺いたい。なぜなら、今後どのような広がりがあるのか若干イメージをしにくい。必要器具や備品がカバーされた形であればこの事業は実施できると思うが、それが内部化し、店舗側の自己負担が必要になると、どれぐらいの参加が見込まれるのか。このような取り組みをモデル事業的に実施している段階を越えて、更に活性化していくとな

った場合、現実的な運営且つ公益性を考えて実施可能か。

説明者 ゴールイメージは、駅前から西公園に続く青葉通をほこみちに（歩行者利便増進道路）指定されるよう取り組んでいきたい。更に、区域指定というものがあり、この5年間、社会実験を通じて、藤崎前などの様々な沿道や東二番丁通の地下道広場で公共空間利活用イベントを開催してきた。過年度の社会実験を通じて、この場所は使えるのではないかと思っているところを、まず区域指定いただけるよう取り組みたい。また、今後これらの活動を自走化したときに、どのようにマネタイズするのかという部分は、課題だと認識としている。事業性というところで、プレイヤーの方にもマネタイズをしっかりと行って欲しいとお願いすることも並行して取り組みたい。これができる見込みが立ったときに、初めて実装という段階に入っている。

委員 青葉通は立派な歩道がある空間なので、何も無いともったいなく、何か活用できないかと思っていた。コンセプトは大事であり、仙台の象徴的な青葉通を活用しながら、継続して成果と課題をうまくまとめていただきたい。ただ、もう少し条件を変えながら、参加してもらう方には、出展料など負担していただくようなことも、検証の中に取り入れていかないと現実的に厳しいのではないかと。せっかく良いものを生かそうという考えなので、継続してできればと思う。また、今仙台では定禅寺通を含めて、この系統の企画が季節を問わず開催されており、埋もれてしまう可能性もあるのではないかと。PR や広報の仕方もマニュアルとして検討が必要と思った。

説明者 PR については、情報発信サービス事業として、今後検証していきたいと思っている。例えば、トラック広告などの広告事業をすることで、PR 協賛を募りまちづくり活動に還元していく形、これも1つのマネタイズと思っている。エリアマネジメント事業のPR について指摘を踏まえながら、進めていきたい。

⑧ 仙台伝統ものづくり事業

委員 仙台には伝統的な民芸、工芸、産業がたくさんある。そういうものに着目し、その良さ、大切さを継承していくことは大事なことだ。今の活動は柏木市民センターとの協働がメインになっていると思うが、例えば、皆さんが考えている企画やこれまでの活動ノウハウを他の社会教育施設や学校教育等と繋げる考えはないか。

説明者 現段階でそこまでのレベルまで考えてはいないが、今後目指していきたい。

委員 大変面白い内容の講座を企画、運営しているが、参加人数が少なくもったいないと思った。例えば、同じような企画を他のところにも広げられないか。小学校では中学年で伝統工芸について学ぶカリキュラムがあるため、コーディネートする立場で活動していただくと、考えられていることの実現や広がりにつながると思った。ただし、メンバーのマンパワーなど、今後の課題になると思う。柏木市民センター近くの小学校でも良いと思うが、アプローチしていただくとありがたい。

説明者 市民有志による企画チームというのがあり、まずそちらのマンパワーを充足させた上で、可能な範囲で周囲に広げていきたいと考えている。

委員 他の市民センターにも企画を共有することは私も考えた。1つは、伝統ものづくり塾とい

う取り組みを他の市民センターでも行うということ。もう 1 つは、どのような形で企画チームのノウハウが蓄積、展開されてきたのかが他所にも広がっていくと、伝統ものづくり塾というトピックだけではなく、周囲に参加あるいは会の運営ノウハウが広がると思うので、そういう意味では記録というものは大事になってくると思う。

説明者 企画チームは、過去の伝統ものづくり塾の講座に参加した方を対象に声をかけて、希望者が集まっているもの。今後企画チームのマンパワーを強化していきたい。

委員 企画チームの意欲や学びたいこと、関心のあることを調べながら講座の組み立てをし、実施後の達成感や関係者同士の関係を築いて、その輪を広げていくということは良いと思う。この活動の周知について、広報はどのようにしているのか。

説明者 広報については、主に市政だよりへの掲載と市民センターでチラシやリーフレットを配布している。

委員 仙台は転入者が多いので、このような仙台を知る手がかりになるようなテーマを取り上げているといった部分で、参加をする方のターゲットを絞り込んだ広報という観点も、1つあると思った。転入者や時間があって何かやりたいと求めている方、子育て世代に向けて、告知をすることも、内容によっては関心を持ってもらえるかもしれない。参加人数が小規模で行っているのでも、無理のない範囲での事業展開を検討できるのではないかと。

説明者 アドバイスを今後の検討材料としてやっていきたい。

委員 収支決算を見ると、現段階で残額が多くあるが、これは今年度中に使う予定があるのか。

説明者 今年度中に使用する予定はない。今年度は、歴史民俗資料館の学芸員に講師を依頼した関係で、講演料や講師料がかからなかったため、支出が少なくなっている。

⑨ 仙台の昔を伝える紙芝居・上演事業

委員 収支について、紙芝居の販売売上金とあるが、売上対象が 12 ヶ所になっている。この売上先は、どのようなところになるか。

説明者 過去に製作した紙芝居の販売を行っており、一般客向けに販売しているものだ。

委員 紙芝居製作は非常に労力が必要だと思うが、実行委員会何人で行っているか。

説明者 実行委員は現在 6 名おり、製作する方はそのうちの 1 人である。

委員 平成 12 年からの活動において、紙芝居上演会を主な活動としていることはわかるが、活動自体が曖昧な感じがある。例えば、ターゲットを絞って活動していくと、より成果は見えやすくなると感じた。

説明者 事業の目的は、紙芝居を通じて仙台の歴史を広く伝えることであり、上演機会を増やし、できるだけ多くの方々に触れてもらうことを目指している。

委員 1 広げていくシナリオを描いていくにあたり、最初のポイントを置くということも必要になると思った。

委員 2 今年度初めて聴覚支援学校での上演会が実現したきっかけやエピソードがあれば伺いたい。

説明者 きっかけは、毎年 3 月頃に手話通訳付きの上演会を太白区にある地底の森ミュージアム

で開催しているが、その際に手話通訳を担当した方から聴覚支援学校でも開催してほしいと依頼があり、聴覚支援学校と調整のうえ実現した。

委員 メディアテークでも絵本を手話で伝える催しが行われている。絵の展開もすごく鮮やかで、子供たちが関心を持って聞いてくれる。絵本と紙芝居の違いはあるが、そのメディアテークの取り組みは共有したい。

説明者 そのことについて、実行委員会で共有する。

委員 この紙芝居は自作教材とも思っている。次世代に伝えたい仙台の歴史を紙芝居としてまとめ表現し伝える活動だと思うが、仙台市の教育局では、このような紙芝居も含めて、自作教材のコンクールを従来から行っている。良い教材と思うので、このコンクールへの参加も視野に入れてもらおうと、また1つ違った展開があるのではないかな。

(3) その他

4 閉会

以上の内容について、相違ないことを認めます。

署 名 人 _____

議長（委員長） _____